

# やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信  
No. 73 (2007. 6. 28)  
事務局 TEL/FAX 0584-78-4119  
大垣市田町1-20-1 近藤方

## 木曽川水系河川整備基本方針策定着手

### ～河川法16条の2の形骸化、加速～

6月25日に、第4回木曽川水系流域委員会が開かれたようです。

そして、6月29日に木曽川水系が議題となる「社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会（第69回）」が開催されます。

その現時点は、「木曽川水系河川整備計画策定の進め方」（次ページ）の「ステージⅡ」の初め（最初の1ミリくらい）だ、というのです（6月26日 中部地整河川部）。

「2007年度中に、木曽川水系河川整備計画を策定したい」と言っているのです（昨年6月）。そうすると「ステージⅡ」の大部分と「ステージⅢ」をあと9ヶ月間に押し込む、という日程になります。ステージⅢは「河川整備異本方針」が官報告示された後に作られる「河川整備計画原案」が出来ないと始まりません。つまり「河川整備計画原案提示→住民意見聴取」の過程全体を、ほんの2～3ヶ月で駆け抜けるしかない、ということになります。

河川法16条の2で謳われた「住民参加」が、いかに骨抜きにされているかが、ここ木曽川水系（河川法「改正」の契機を作った）で、一目瞭然、というわけです。

ちなみに、徳山ダム事業実施基本計画変更（2004.7）で、国交省は「新洪水調節計画」という河川法僭脱（16条の2の手続き一切を僭脱した）をやりました。このとき、国交省中部地整は、揖斐川基準点・万石（大垣市）で計画高水位を少々超えた2002年7月台風6号洪水につき、「3900m<sup>3</sup>/Sに押さえられる、計画高水位以下になる」と強調しました。

### 恒例：徳山村キャンプ 8月18日(土)～19日(日)

水機構・国交省は、解決すべき問題を何ら解決しないまま、湛水を強行しています。「最後にしないぞ!」とまた、恒例のキャンプを行います。

今年は「小屋」がありませんので、

- ① 大雨が予想されるときは中止します。連絡体制がとれるようにしたいです。
- ② テント等、ご自分の分以外にもお持ちより頂けるとありがたいです。

18日(土) 13時 JR大垣駅北口集合出発。

19日(日)の午後の早め帰着。

参加費：3000円～3500円程度（子供は無料）。食事・飲み物は準備します。

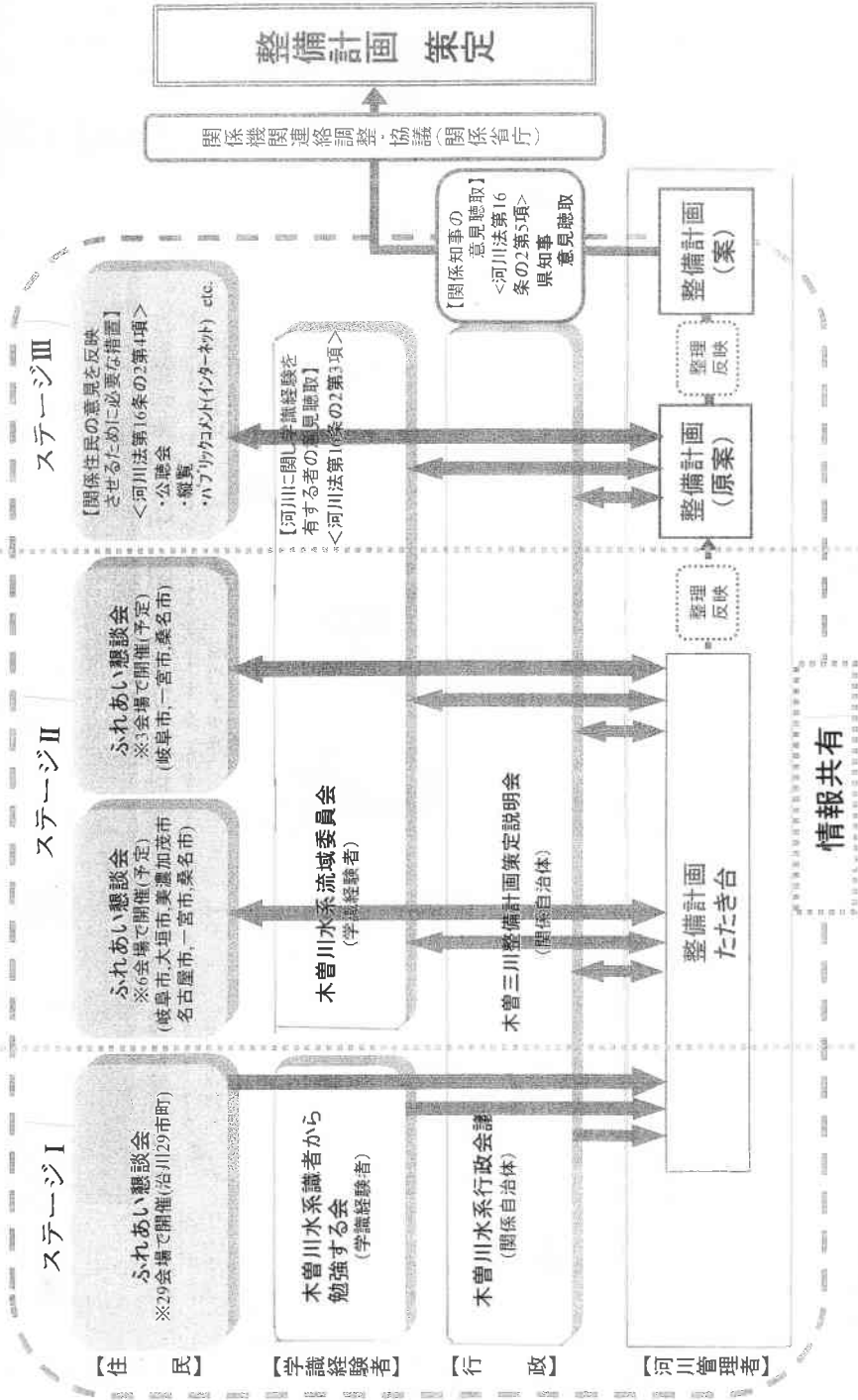
参加者各自が用意するもの：寝袋 or 毛布。長袖シャツ。雨具など。（できるだけ）

my 箸、my コップ、my 皿。

お申込み・お問合せは、事務局・近藤へ 0584-78-4119

# 木曾川水系河川整備計画策定の進め方(概念的フロー図)

河川管理者が、住民・学識経験者・行政からそれぞれ意見を聴取り、情報共有を図る



07.06.26時点(中部地整の認識) 河川整備基本方針策定

木曾川水系河川整備計画サイト  
<http://www.kisosansen-plan.jp/>

- 06.05.17 「木曾川水系識者から勉強する会」第1回  
 「木曾川水系河川整備計画策定の進め方(案)」を提示
- 06.06.01 木曾川水系「ふれあい懇談会」を発表
- 07.03.13 木曾川水系流域委員会(辻本哲郎委員長)発足
- 07.06.29 「社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会(第69回)」

この洪水直後から「2002年7月台風6号洪水の流域平均2日雨量（現行の工事实施基本計画の高水計画は流域平均2日雨量で策定されている）の数値は？」と問い続けてきました。これに対して、中部地整河川部は「計算していない、計算するには特別に予算が要る」等と逃げ続けていました（「その程度の計算（プログラムは簡単、各観測所の数値を入れるだけ）も出来ないのに、「徳山ダムの洪水調節『効果』」だけは計算出来る、という偏った話）。

6月4日になって、ようやく「325mm/2日」と答えました。揖斐川流域では「年超過確率1/30（30年に1度はこれを超える）＝流域平均雨量329mm/2日」です。325mm/2日は1/30以下。「計画高水位を少しでも超えると破堤の危険がある」というのが、ダムを作るときの河川官僚の論理です。とすれば「新洪水調節計画」は、（計画河道に改修後も）1/30以下で本川が破堤することが前提の計画だ、ということになります。危ない危ない。（「325mm/2日」を教えてくれた中部地整河川部のG氏に「新洪水調節計画で3900m<sup>3</sup>/S（実績）となっている2002年7月台風6号洪水を、1/100＝395mm/2日で引き伸ばしすると、幾らになりますか？」と尋ねたら、目の前で計算して「4740・・・」と絶句していました。私たちは、そのことを繰り返して指摘してきたのに。

#### 04.05.11「国土審議会水資源開発分科会木曽川部会への意見書」

[http://tokuyama-dam.cside.com/opinion\\_paper\\_top.htm](http://tokuyama-dam.cside.com/opinion_paper_top.htm) 在間弁護士の部分など

こうした摩訶不思議な状況の中で、「徳山ダム前提」の河川整備基本方針－河川整備計画が、徳山ダムにかかる木曽川水系連絡導水路計画をオーソライズするものとして策定されるわけです。

こういう巨大人工構造物建設ありきの「川づくり」に、一体いつまで付き合わされるのでしょうか？

## やはり「できちゃった」導水路か？ ～徳山ダムにかかる木曽川水系連絡導水路～

3月21日に、「導水路事業の必要性和効果については「それらしき根拠が何もない」、つまり「できちゃった徳山ダム」を正当化するための（にもならないけど）後追いの無駄遣い（かつ環境破壊）でしかない、ということを提示する集会を行いました（前号既報）。

この資料を元に、公共事業チェック議員の会・代表代行の近藤昭一議員に衆議院環境委員会で質問して頂き（3月23日）、さらに質問主意書を提出して貰いました（6月12日）。答弁書は、基本的に「毎度の官僚答弁」です（しかしこちらの決め付けに反論しきれていない、という意味で、こちらの言い分を認めたも同然）。また「環境アセスの適用外」とつっぱらかっていたのを微修正しました（検討する）と。「SEAガイドライン」策定などを意識しているのでしょうか。

衆議院HP内の「質問答弁」[http://www.shugiin.go.jp/index.nsf/html/index\\_shitsumon.htm](http://www.shugiin.go.jp/index.nsf/html/index_shitsumon.htm) に載ります。（HPアップが非常に遅い）

3. 211 学習会資料と併せてみて頂くと、「ウッそう！本気ですか？導水路建設」（＝やってはいけない公共事業）ということが、よくご理解いただけると思います。

# 具体を見ずして国家戦略を語るなかれ

## ～生物多様性国家戦略の見直し～

4月17日、環境省による「生物多様性国家戦略の見直しに係る地方説明会・名古屋」に上田代表と一緒に傍聴に行きました。

傍聴者質疑の中で、上田さんと私は（Oさんも。環境省の用意した資料を示しつつ）『公共事業』で行政が最も生物多様性を脅かしている。このことに対して具体的にどうするのか、を明確にしなければ、単なるきれいごとの言葉の羅列になってしまう。国家戦略というからには行政が率先して実行しなければ意味がない』と強調しました。環境省は真面目に聞いてはいましたが、全体として、上田さん呟いて曰く「環境省のアリバイ作りに協力してしまった、というわけか」の思いを共有しないでもありませんでした。

2010年の生物多様性締結国会議（COP10）名古屋招致、SEAガイドライン導入など、環境省がらみのネタがしばらく続きます。（近藤記）

### <5月28日の徳山>

5月28日に、事務局で「見学」しました。洪水吐きの直下などにも行ってきました。



振込用紙を同封します。会費としてでもカンパとしてでも、お振り込み頂ければ幸いです。

「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫  
編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1  
TEL/FAX 0584-78-4119 Email: tokuyama-dam@cside.com  
URL: <http://tokuyama-dam.cside.com/>  
郵便振替：00800-7-31632 年会費 2000円



あの悪夢から5年！！ やっと！！

「洗堰のかさ上げ」が、実現か？

忘れてはならない、忘れられない！

これからは、大丈夫なのか？！

もういちど、みんなをよく考えて見ましょう！

**荒崎地区を水害の無い、  
安心安全の、町にしよう！**

平成14年7月の台風6号災害から5年が過ぎました。

「水害の無い、安心・安全」の町づくり集会を次のとおり、  
行いますので、是非お集まりください。

日 時 平成19年7月8日(日)  
午後 1 時 より  
場 所 荒崎地区センター ホール  
内 容 ①ビデオ上映

②新川・野並地区の方との意見交換会

③大谷川流域の工事進捗情報

講師に

水源開発問題全国連絡会共同代表

遠藤保男氏 来垣

※皆様方お誘いでお集まりください。お願いいたします。

**荒崎地区より水害をなくす会**



問合せ/連絡先：佐藤信一（0584-91-0316）

現地説明会 午前11時 荒崎地区センター集合  
(昼食は各自ご用意下さい)

<Information 2>

# 水になった村

監督・撮影 大西暢夫 企画・製作 本橋成一

降り注ぐ笑いが  
僕の宝物だった  
この先  
ジジババたちは  
どこへ行くのだろうか

1957年、岐阜県徳山村にダム建設の話が広まった。総貯水量6億6千万立方メートル、日本最大のダムだ。当時徳山村の住民は、約1600人。みな次々に近隣の街につくられた移転地へと引っ越していった。それでも、何家族かの老人たちが、村が流んでしまうまでできる限り暮らし続けたいと、街から戻って来た。写真家の大西暢夫が村を訪ね、彼らに出会ったのは今から15年前のことだ。

## ここにはわしらを見守ってくれる 神様がおるんじや。

20代だった僕と80代だったじよばあさん。5合の炊き込みご飯を2人で一気に平らげたお昼ご飯の記録は、何年たっても僕たちの中で話題になった。「じよさん食い過ぎやで!」「山で食べると何でもおいしいの。はははは〜」一日の仕事の多くは、食べ物を作り出してゆくことばかりだ。しかしこれが人の生き方なのかなと感じた。僕はそんなジジババともう15年くらい寄り添い写真を撮ってきた。通ううちに、徳山村が僕の生きてゆきたい理想の場所だったと気づいた。だからあきること一度もなかった。あるババが荒れた大地を見ながら言った。「人が神様の仕事に手をつけはじめたア」廃村になった徳山村に残ったジジババは、決してダム反対を訴え居座っている訳ではない。ダムが完成するまで住み続けたかっただけだ。ジジババが山を去る日、僕も徳山に別れを告げた。ここは僕の宝物だった。そして、村は水底に沈んだ。この場所を繰り返し言い伝える事が村の記憶につながってゆくのだろう。

おおいし・のぶお©1968年生まれ岐阜育ち。岐阜県徳山村をはじめ、日本中のダム計画のある土地で暮らす人たちの姿を追い続けている写真家。CS放送で徳山村のドキュメンタリー番組を作ったことが、今回の映画製作のきっかけとなった。著書に、徳山村の写真絵本「おばあちゃんは木になった」(ポプラ社・第8回日本絵本賞受賞)、「僕の村の宝物」(情報センター出版局)など。現在、ジジババの暮らしに影響され、埼玉の自宅近くで畑を耕し、都会での自給自足の暮らしも楽しんでいる。

監督・撮影  
大西暢夫



隔の当たるアスファルトの村道にひたひたと水が浸みってくる。小さな黒いバツタが突然の水でチョコチョコと逃げ出す。また水が迫ってくる。そしてまた水が…。撮影も大詰めであったころ、大西暢夫が撮ってきた映像を観てぼくはこれでこの映画は完成したと思った。どうして人間だけが大地の時の流れを振り切って走り出してしまったのだろうか。あのバツタをはじめ、ほかの生きものたちはみんな知りたがっている。

映画「ナージャの村」[アレクセイと泉]監督  
ベルリン国際映画祭ベルリナー新聞賞受賞

企画・製作  
本橋成一



## 水になった村

2007年8月4日(土)より  
ポレポレ東中野にてロードショー

特別鑑賞券1,300円 劇場窓口、チケットぴあにて好評発売中!  
当日料金 一般1500円/大学・専門学校生1300円/中学生・シニア1000円/小学生700円



ポレポレ東中野  
03-3371-0088  
<http://www.mmjp.or.jp/pole2/>  
JR 総武線東中野西口北側出口  
地下鉄 大江戸線東中野駅A1  
出口より徒歩1分

9月8日～ コロナワールド (大垣) で上映決定!